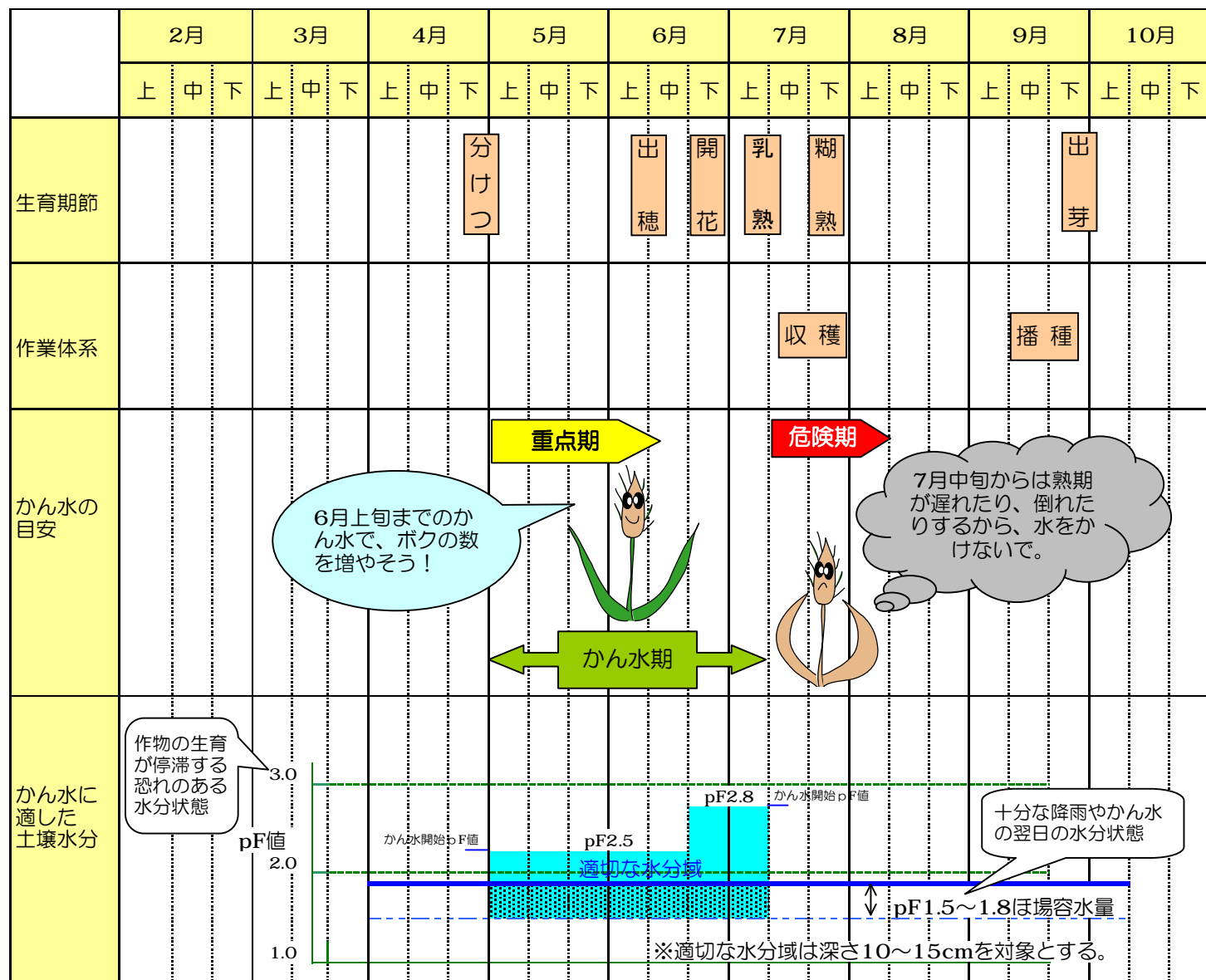


# あき こむぎ 秋まき小麦



## かん水のねらい

- ☆ 養分吸収を促進して有効分けつを増やし、穂数を確保することで収量性を高めます。
- ☆ 出穂期以降の強度の干ばつによる生育阻害を回避します。

## かん水のポイント

- ☆ 追肥後のかん水は、養分の溶出と吸収を促進するためなので、土壌の乾燥状況を必ず確認したうえで行います。

## 失敗しないためのアドバイス

- ☆ 播種期は土壌乾燥の影響が小さいので、かん水の必要はありません。
- ☆ 乳熟期以降は熟期の遅延や倒伏の危険性があるので、干ばつ傾向であってもかん水は行いません。

用語解説のページへ

## 用語解説

### 【かん水期の目安】

かん水期間の目安として、かん水期、重点期、注意期、危険期に区分して表示しました。

- ” **かん水期** ” . . . 対象とする作物の生育ステージのなかで、水分不足となったときにかん水が必要な時期を表します。
- ” **重点期** ” . . . 水分不足時に特にかん水を必要とする期間になります。
- ” **注意期** ” . . . 水分不足であっても、かん水することで病害等の発生や品質の低下なども考慮しなければならない期間です。
- ” **危険期** ” . . . 水分不足であっても、かん水による効果はほとんど得られず、病害や品質低下といった危険性が大きくなる期間です。

### 【かん水に適した土壌水分】

かん水によって調整する土壌水分の水分域として、” pF値 ” を表示してあります。

pF1.5～1.8は、十分な降雨やかん水の翌日の水分状態に相当します。pF3.0は、ほ場の表面が乾いて白っぽくなる状態で、作物の生育が停滞する恐れのある水分状態に相当します。

作物の生育期節によって適切な水分域は異なりますが、適切な水分域のpF値で上限値となった場合にかん水を開始します。生育の初期や野菜作などは、作物の特性から指標pF値が低くなり、”カラカラ”に乾く前にかん水することになります。



- ” **pF値** ” . . . 土壌水分状態を表すには” pF [ピーエフ] ” という単位があります。これは、土粒子と水とが結びついている力を数値によって表したものです。この” pF ” の値は、土壌水分計などで測定することができます。” pF ” の値が大きいほど乾燥しており、作物が根から水分を吸収するのに大きな力が必要になることを意味します。

[かん水適期のページへ](#)